

# 週刊センターニュース No.199



第199号(2008年3月21日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 理学部FD研修会参加報告

2月29日に理学部FD研修会が開催された。今回は、富山県立大学の奥田實先生により「大学の教育改革と授業アンケート活用例」について講演が行われた後、富山県立大学の事例と対比しながら、本学理学部での授業アンケートの実情等について議論が行われた。

富山県立大学は、平成2年に開学された教員90名、学生定員190名(平成18年10月現在)の工学系単科大学である。4年間にわたり指導教員が各学生の修学状況を把握し、指導する体制が整っている。1年次教養ゼミ、2年次トピックスゼミ、3年次専門ゼミ、4年次卒研ゼミが実施され、学生のケア機能も意図された少人数教育が重視されている。学生の授業出席状況、成績の履歴が記録され、個別面談、保護者への連絡・連携、教務委員長と指導教員との連携をもとに学生の脱落を未然に防いでいる。金沢工業大学の事例をはじめとする先進的な学生支援の一つの類型とみなすことができる。

本題の授業アンケートの活用であるが、教養の科目区分(総合科目、数学・物理・化学など基礎教養科目など)ごと、学科(専門科目)ごとのFDとして、全担当教員の授業アンケート結果が印刷、配布され、教員同士で意見交換を行う。授業アンケートの実施、FD、授業改善は改革推進委員会の中の教育改革・改善WGが主導する。機械工学科の場合、各教員は授業アンケートに基づき教育改善計画書をWGの中の授業改善チームに提出することになっている。また、授業アンケートの結果が悪い教員に対しては学科主任が個別指導を行う。アメリカの大学のFDスタイルである。

授業アンケート結果を教員同士で見せ合い議論するというFDにはかなり驚いた。研究室で一人反省するのは違い、相当のプレッシャーがかかるであろうが、批判的なコメントが自分だけではないことがわかり、教員の被害者意識が軽減され授業改善に前向きになる効果もあるとの指摘がなされた。先進的なFD活動事例を知ることができた有意義なFD研修会であった。

(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)

## 工学部教育方法改善シンポジウム参加報告

3月14日に開催された工学部の第9回教育方法改善シンポジウムに参加した。工学部では学部としての方針、課題を設定した上で、学科ごとのFD活動が行われているが、本シンポジウムはそれらの総括に位置づけられる。工学部の教育改善の基本は、在学生による授業評価と卒業生による達成度評価アンケート結果の教育内容、方法、カリキュラム改善へのフィードバック構造にある。卒業生による評価は今年度で8回目となる。今年度の学部全体(卒業後3年、6年、10年の卒業生約1500名が対象)の結果が報告されたが、学科ごとの分析結果も資料として示された。「実験を通して現象を科学的に分析・理解する能力」、「課題の提案・報告などを科学的に分析・理解する能力」など工学部の8つの教育目標について、その達成度を評価するものだが、その評価を卒業生に委ねる点においてきわめて信頼性の高いアウトカム評価と考えることができる。この卒業生による評価では、8つの教育目標が「職場で要求される能力」に該当するかどうかを5段階で回答させることにより、現在の教育目標自体も評価・改善の対象としている。このようなアンケートの分析に基づき、専門の導入科目や課題発見・解決能力の養成、グループ活動を重視した創成科目の改善・開発が学科ごとに進めら

れており、その状況についても資料で示された。

今回のシンポジウムでは、在学生による授業評価結果に基づく優秀教員の表彰（今年度で5回目となる）が行われ、続いて「技術英語の教育方法とその実践事例」について3名の教員による専門英語科目の教育内容について詳細な報告が行われた。同時に外国語教育研究センターの澤田茂保先生により共通教育の英語教育内容と教育目標について報告が行われた。近年の中等英語教育におけるオール重視の授業方法の影響で今後の入学者の文法、読解など英語基礎学力の低下が懸念されることを具体的な証拠に基づいて述べられた。専門英語教育の実施においても入学者の学力の分析、把握が今後一層重要になると思われる。

工学部の教育方法改善の今後の課題として、学域・学類制の下でのFD活動の実施体制についての検討、本学中期計画にある学部・大学院博士前期課程の6年一貫教育についての具体的な検討が提示された。これらの課題は全学に共通するものであり、全学的な課題として今後検討する必要があるであろう。（文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭）

### 第13回大学教育研究フォーラムのお知らせ

3月26日（水）と27日（木）の2日間にわたり、京都大学高等教育研究開発推進センターにおいて第13回大学教育研究フォーラムが開催されます。今年は、特色GP「相互研修型FDの組織化による教育改善」の一環として行われ、1日目午後からのシンポジウムにおいて基調報告「相互研修型FDの組織化」（田中毎実・京都大高等教育研究開発推進センター長）に続き、絹川正吉（国際基督教大元学長）、天野郁夫（東京大名誉教授）他2氏のコメント、討論となります。FDの義務化という時宜を得たテーマで、有益な情報が得られるものと期待しています。また、その他に、個人研究発表、小講演（いずれも26.27日の午前）、ラウンドテーブル（27日午後）において、教育評価、カリキュラム、授業研究、e-Learning・遠隔教育・英語教育等に関する多様な報告が準備されており、各大学における様々な実践の紹介が行われます。

また今回、大学教育開発・支援センターは、「学生支援の位置づけとその評価 - 認証評価・GP・FD」というテーマでラウンドテーブルにて話題提供を行うことになっております。

詳細な内容・プログラムは、<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/2007/program2007.pdf> で参照できます。ご関心のある方、是非ご参加下さい。当日受付も可能ですので直接お申込み下さい。

### 高等教育に関するセミナー・研究会情報

・3月26日（水）午後3時～5時半「高等教育のグローバル時代における質保証と出口管理」

会場：関西国際大学4号館（兵庫県三木市志染町青山1-18） 電話：0794-85-2288

アクセス方法は、<http://www.kuins.ac.jp/kuinsHP/general/gettransport.html>

シンポジスト（司会：濱名 篤：関西国際大学学長）

・ロバート・コーエン（ロンドン大教育学部名誉教授、ヨーロッパ比較教育学会会長）、ユッシ・ヴァリマー（フィンランド・ユヴァスキュラ大学教育研究所）、館昭（桜美林大大学院教授）

コーエン、ヴァリマー両氏の報告は英語。ただし抄訳での通訳あり

問合せ・申込先：関西国際大学高等教育研究開発センター（担当：海老坂）

Mail:yuki-e@kuins.ac.jp、FAX:0794-85-1102 申込は3/22（土）までに

詳細は、[http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/news\\_topic.php?id=766](http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/news_topic.php?id=766) を参照

・3月27日（木）13時30分～16時 大阪樟蔭女子大学「現代GP第1回シンポジウム」

会場：大阪樟蔭女子大学 小阪キャンパス（東大阪市菱屋西4-2-26）

アクセス方法は、<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/index.html>

第1部 講演

「授業デザインの方法論 - 基本要素から評価まで」（近田 政博：名古屋大学高等教育開発センター）

「総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト」進捗報告（川上 正浩：大阪樟蔭女子大学 人間科学部）

第2部 パネル・ディスカッション「大学教育の新たな方向」～学士課程教育、初年次教育について

パネリスト 濱名 篤（関西国際大学学長）、川嶋 太津夫（神戸大学大学教育推進機構教授）、森田 洋司（大阪樟蔭女子大学 学長）

問合せ・申込先：大阪樟蔭女子大学サイクルプロジェクト事務局

TEL:0745-71-3155、E-mail:shinroshien.a01@osaka-shoin.com

詳細は、<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/gp/events/sicle/200803/index.html> を参照